

1. <情報社会学科> 履修上の注意

平成 18 年度 (2006) ～23 年度 (2011) 入学者用

以下に科目履修にあたっての注意点を挙げる。学生は履修細則と合わせて熟読し、卒業に際し、問題の起こらないよう留意すること。

1. 本学科を卒業するためには、学部規程別表 I 「授業科目表」に記載されている科目のうちから、4 年次終了までに、教養科目 50 単位以上、専門科目 74 単位以上、合計 124 単位以上を履修しなければならない。このうち平成 18 年度入学生については必修 42 単位、選択必修 10 単位、平成 19 年度以降入学生については必修 34 単位、選択必修 10 単位が必要である。
2. 履修は別表「授業科目配当表」に記された配当年次に行うのが標準であるが、これにとらわれずに自分の所属より下の年次に配当された科目を履修することもできる。早期卒業を希望する場合の情報社会総合演習を除いて、所属より上の年次に配当されている科目を履修することはできない。
3. 1 年間に履修登録できる単位の上限は 50 単位である。本学科では各年次に履修すべき科目と単位数を厳格に定めた学年・進級制をとってはいないが、3 年次終了までに 74 単位を修得していなければ、4 年間で卒業できないことがその時点で確定し、また 2 年次終了までに 24 単位を修得していなければ、その時点で卒業延期が確定する。4 年間で卒業するためには、各年次に 36 単位程度を履修し、4 年次では情報社会総合演習の他、数科目を履修すればよくなるよう計画的に履修することが重要である。
4. 1～2 年次に配当されている教養科目は、人間理解 (人文科学)、国際理解 (社会科学)、科学技術理解 (自然科学)、外国語、情報の 5 つの学問分野から構成されている。1～2 年次には、学生はなるべく広い分野にわたる科目を履修することによって視野を広げ、自らの真の興味のありかを発見していくことが望ましい。
5. 主として 2 年次以降に開講される専門科目はそれぞれ、基礎科目、基幹科目、展開科目と呼ばれる。また、これとは別に大学卒業後の進路に対する指針と支援を与える目的でキャリア科目が設置されている。
6. 2 年次以降、学生は学科内に設けられた 3 コースのいずれかに所属し、別表「コース指定科目表」に示される所属コースの指定科目を 30 単位以上履修するが、それ以外は自分の興味や進路希望に基づいて「授業科目表」に記載のすべての科目を自由に履修することができる。
7. コースの指定科目の履修にあたっては、「コース指定科目表」の注意事項をよく読むこと。
8. 英語履修上の注意
英語 I～V の学期毎の開講は次のとおりである。

【1 年次後期】

英語 I
英語 II
英語 III

【2 年次前期】

英語 II
英語 III
英語 IV

【2 年次後期】

英語 III
英語 IV
英語 V

- i. 英語は選択必修であるが、1年次後期に関しては、学生の意思に関わらず、前期の基礎英語の履修状況に照らして学科が指定するⅠ・Ⅱ・Ⅲのいずれかを履修する。
 - ii. 2年次前期以降は、学生の意思に関わらず、その学期に開講される英語のうちから、前学期の英語の履修状況に照らして学科が指定する科目を履修する。
9. 概論5科目の履修上の注意

基礎科目の5つの概論（法学概論、経済学概論、経営学概論、会計学概論、簿記概論）は、このうちの最低2科目（4単位）を必ず修得しなければならない。ただし、ネットワーク社会コースに所属する学生は、これら5科目のうちの最低3科目（6単位）を修得しなければならない。
10. 演習履修上の注意
 - i. 基礎演習Ⅰ（学習法基礎）〔1年次前期〕

大学における学習法の基礎についての演習クラスが置かれるが、学生の所属は学科が指定する。
 - ii. 基礎演習Ⅱ（課題演習）〔1年次後期〕

基礎演習Ⅰで学んだ学習法に基づいて、課題についての調査・研究、報告書の作成・発表の練習をおこなう。課題の内容が異なる複数のクラスが開講され、学生はその中から希望するクラスを選択して履修するが、クラス編成の都合により受講者数の調整を行うことがある。
 - iii. 情報社会基礎演習Ⅰ〔2年次前期〕、情報社会基礎演習Ⅱ〔2年次後期〕

学期ごとに、各コースでその専門に関わる何種かの演習が開講され、学生はその中から希望するクラスを選択して履修するが、クラス編成の都合により受講者数の調整を行うことがある。
 - iv. 情報社会一般演習Ⅰ・Ⅱ〔3年次前・後期〕、情報社会総合演習Ⅰ・Ⅱ〔4年次前・後期〕

コースごとに、より専門性を高めた1クラス10名程度の演習が開講され、学生は自分の関心と進路希望に応じてそのいずれかを選択履修する。ただし、クラス編成の都合により受講者数の調整を行うことがある。
演習は3年次の情報社会一般演習は週1回、4年次の情報社会総合演習は週2回行われる。4年次には、指導教員と相談しながらテーマを定め、卒業研究を行う。
原則として学生は2年間を通して同一の指導教員の演習に所属することになるので、3年次の演習の選択は慎重に行わなければならない。
11. 「情報社会インターンシップ」の履修上の注意

インターンシップがキャリア科目「情報社会インターンシップ」の単位認定の対象となるためには、以下の諸条件を満たさなければならない。

 - i. 教務課を通じたインターンシップの申し込み
 - ii. ビジネスマナー教習の受講
 - iii. インターンシップ実習への参加
 - iv. 報告会への出席
 - v. 所定の書式による実習中の日誌の提出

平成 17 年度 (2005) 以前の入学者用

以下に科目履修にあたっての注意点を挙げる。学生は履修細則と合わせて熟読し、卒業に際し、問題の起こらないよう留意すること。

1. 本学科を卒業するためには、学部規程別表 I 「授業科目表」に記載されている科目のうちから、4 年次終了までに、教養科目 50 単位以上、専門科目 74 単位以上、合計 124 単位以上を履修しなければならない。このうち必修 40 単位、選択必修 10 単位が必要である。
2. 履修は別表「授業科目配当表」に記された配当年次に行うのが標準であるが、これにとらわれずに自分の所属より下の年次に配当された科目を履修することもできる。
3. 1 年間に履修登録できる単位の上限は 50 単位である。本学科では各年次に履修すべき科目と単位数を厳格に定めた学年・進級制をとってはいないが、3 年次終了までに 74 単位を修得していなければ、4 年間で卒業できないことがその時点で確定し、また 2 年次終了までに 24 単位を修得していなければ、その時点で卒業延期が確定する。4 年間で卒業するためには、各年次に 36 単位程度を履修し、4 年次では情報社会総合演習の他、数科目を履修すればよくなるよう計画的に履修することが重要である。
4. 1～2 年次に配当されている教養科目は、人間理解 (人文科学)、国際社会理解 (社会科学)、科学技術理解 (自然科学)、英語、情報の 5 つの学問分野から構成されている。1～2 年次には、学生はなるべく広い分野にわたる科目を履修することによって視野を広げ、自らの真の興味のありかを発見していくことが望ましい。
5. 主として 2 年次以降に開講される授業科目はそれぞれ、基礎科目、基幹科目、展開科目と呼ばれ、人文科学、社会科学、英語、情報の 4 つの学問分野から構成されている。また、これとは別に大学卒業後の進路に対する指針と支援を与える目的で、キャリア科目が設置されている。学生はいずれの分野の科目をも履修することができるが、とくに 3～4 年次では、自分の興味や進路希望に基づいて 1 分野を中心に据えつつ、かつ関連する他分野の科目をも履修することが望ましい。
6. 総合英語履修上の注意
総合英語 I～V の内容と学期毎の開講は次のとおりである。学生は I～V うち、異なるものを 3 科目履修しなければならない。

【1 年次後期】	【2 年次前期】	【2 年次後期】
総合英語 I (初・中級英語)	II (中級英語)	III (理系英語)
総合英語 II (中級英語)	III (理系英語)	IV (文系英語)
総合英語 III (理系英語)	IV (文系英語)	V (文学作品)

- i. 総合英語は選択必修であるが、1 年次後期に関しては、前期の基礎英語の履修状況に照らして I・II・III の振分けを行う。また、同じ番号の総合英語を 2 度履修することはできない。
- ii. 上記のとおり、2 年次前期以降は学生の意思により、その学期に開講されている総合英語のいずれかを選択できる。ただし、クラス編成の都合により受講者数の調整を行うことがある。

7. 概論5科目の履修上の注意

基礎科目の5つの概論（法学概論，経済学概論，経営学概論，会計学概論，簿記概論）は、このうちの最低2科目（4単位）を必ず履修しなければならない。

8. 演習履修上の注意

i. 基礎演習Ⅰ（学習法基礎）〔1年次前期〕

大学における学習法の基礎についての複数の演習クラスが置かれるが、学生の所属は学科が決定する。

ii. 基礎演習Ⅱ（課題演習）〔1年次後期〕，情報社会基礎演習Ⅰ〔2年次前期〕，情報社会基礎演習Ⅱ〔2年次後期〕

人文科学，英語，社会科学，情報の4分野にわたって演習クラスが置かれ、学生はこの中から希望するクラスを選択して履修するが、1年次後期から2年次後期までの3学期間に同じ分野の演習を2度履修することはできない。また、クラス編成の都合により受講者数の調整を行うことがある。

iii. 情報社会一般演習Ⅰ・Ⅱ〔3年次前・後期〕，情報社会総合演習Ⅰ・Ⅱ〔4年次前・後期〕

これら3・4年次の演習については、4分野それぞれの中で、より専門性を深めた1クラス10名程度の演習が開講され、学生は自分の関心と進路希望に応じて、そのいずれかを選択履修する。ただし、クラス編成の都合により受講者数の調整を行うことがある。

演習は3年次の情報社会一般演習は週1回，4年次の情報社会総合演習は週2回行われる。原則として学生は2年間を通して同一の指導教員の演習に所属し，4年次には，指導教員と相談しながらテーマを定め，卒業研究を行う。